

環境白書の刊行にあたって



富山県は、立山連峰や黒部峡谷などの世界的な山岳景観や蜃気楼がみられる不思議の海富山湾、さらには本州一の植生自然度を誇る森林、名水百選に全国最多の8か所が選定される清らかな水環境など、豊かな水と緑に恵まれています。私たちは、これらの素晴らしい環境を守り育て、県民の大切な財産として、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

現在、地球温暖化や生物多様性の低下をはじめとする地球的規模の問題から、廃棄物や自然の改変、大気・水・土壌の汚染などの身近な問題に至るまで、私たちは様々な環境問題に直面しています。特に、地球温暖化は、人類の生存に関わる深刻な環境問題であり、世界中の人々が協力して取り組まなければならない、待ったなしの課題です。また、今年3月に発生した東日本大震災を契機として、環境・エネルギー問題に対する関心が一層高まっており、ライフスタイルや事業活動のあり方を見直すことによる持続可能な社会づくりが求められています。

幸い、富山県では、恵まれた自然環境や県民の皆様の環境問題に取り組む真摯な姿勢に支えられ、全国初となる県内全域でのレジ袋の無料配布廃止をはじめ、エコドライブなどのエコライフの推進、全国トップクラスの包蔵水力を活用した小水力発電の推進や住宅用太陽光発電の導入促進、「水と緑の森づくり税」を活用した里山林の再生、世界自然・野生生物映像祭（JWF）の開催支援など、県民総参加による幅広い取組みを進めてきています。なかでも、レジ袋の無料配布廃止については、マイバッグ持参率が平成22年度も94%と高い水準を維持し、実施店舗数は当初の約2倍に拡大するなど、大きな成果を挙げられています。

また、今年9月には、魚津市、黒部市にまたがる僧ヶ岳一帯を県内6番目の県立自然公園として36年ぶりに指定したところであり、今後、貴重な自然環境の保全事業などを進めることとしています。

加えて、今年、東日本大震災に伴い、全国的に夏季の電力使用の一層の節減が求められたことから、県庁等の更なる省エネに努めるとともに、家庭における節電行動を広く呼びかけたところです。また、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、環境放射能の調査体制を強化し、安全で健康な生活環境の確保に努めることとしています。

今後とも、県民の皆様と力を合わせて、地球温暖化対策をはじめとする循環型社会・低炭素社会の構築、自然環境・生活環境の保全、水資源の保全と活用などに積極的に取り組み、環日本海地域をリードする「環境先端県」づくりを推進してまいります。

この環境白書は、平成22年度及び23年度における本県の環境の状況を紹介するとともに、環境の保全及び創造に向けた取組みについて取りまとめたものです。本書を通じて、多くの皆様に富山県の環境への理解と関心をさらに高めていただき、環境の保全と創造にご協力を賜りますようお願いいたします。

平成23年10月

富山県知事 石井 隆一